

生き生き消防団

敦賀消防団

「若い団員の確保と消防団の活性化を目指して」
—敦賀消防団「つるが鳶」の紹介—

福井県敦賀美方消防組合消防本部

1 はじめに

敦賀消防団が管轄する敦賀市は、地図上では日本海側のほぼ中央、琵琶湖のちょうど真上に当たる人口約7万人の風光明媚な港町です。

敦賀港は古くから貿易の拠点として栄え、「日本書紀」や「古事記」に出てくるように、博多や下関とともに古代日本の三大要津であった港都で、リトアニア・カウナス日本領事館の杉原千畝の発給した「命のビザ」によって、多くのユダヤ人難民がシベリア鉄道からウラジオ

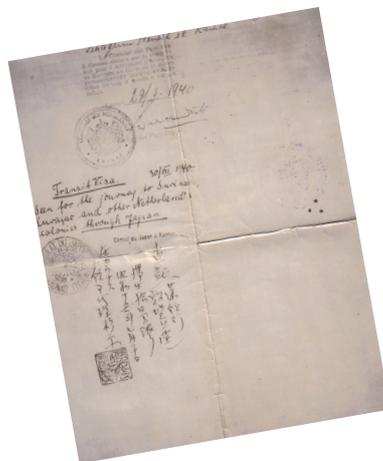
ストク経由で敦賀へ上陸しました。敦賀港は幾度も難民を受け入れてきたことから「人道の港」としても良く知られています。

現在の敦賀港は、日本海側屈指の多目的国際ターミナルを建設中で、完成すれば5万トン級の大型船舶が寄港できるようになり、今後、中国や韓国、ロシアをはじめ北東アジアとの新物流拠点となることが期待され、各方面から港町敦賀の更なる飛躍が望まれているところです。

この敦賀市を守る敦賀消防団は、昭和45年11



▲杉原千畝領事代理



▲命のビザ



▲敦賀港

月1日に敦賀美方消防組合とともに発足し、今年で39年目を迎えます。

消防団の組織規模は、市内を10の分団で管轄し、団員は270名（条例定数270名）で、車両等は普通ポンプ自動車14台、小型動力ポンプ積載車7台、小型動力ポンプ1台を保有しており、これらの人員・装備で活動を展開しています。

当消防団では定数割れこそしていませんが、後継者不足による団員の高齢化（平均年齢47歳）が進んでおり、今後、もっと魅力ある消防団としていくにはどうしたらいいか、また、若い団員をどのように確保していくかが喫緊の課題となっています。

2 敦賀消防団消防鳶隊の発足

このような中、消防団の活性化を図るため「消防とび」の結成の機運が高まり、平成17年から「消防とび」について消防団内各層の意見を取りまとめながら発足に向けての本格的な検討を進め、さらに、福井県内の「越前三国とび」、金沢市の「加賀とび」、滋賀県の「彦根とび」などを研修視察して指導を仰ぎ、平成18年9月に敦賀消防団の新規事業として「消防鳶隊」が結成されました。

消防鳶隊は、華麗で勇壮果敢なる「はしご乗り演技」をもって団員相互の団結と信頼及び士気を高め、消防団の活性化並びに消防団活動の強化を図るとともに、併せて市民の防火意識の高揚に資することを目的としていますが、この鳶隊結成には消防団のイメージアップを図り、

若い団員の確保につなげたいとの強い思いも込められています。

3 消防鳶隊の概要

(1) 名称

敦賀消防団消防鳶隊と称し、愛称は「つるが鳶」。

(2) 鳶隊隊員数

隊長1名（副団長）

鳶隊は壱番隊から参番隊まで

1隊に、小隊長	1名	提灯持ち	1名
まとい持ち	1名	乗り手	4名
大とび	4名	小とび	4名
はしご押さえ	1名		

計16名 合計49名以上

(3) 高さ6メートルのはしご上での演技の種類

火の見（遠見）、邯鄲（かんたん）夢の枕、二本大の字、一本大の字、肝返り、腕留（首抜き）、しゃちほこ、さかさ大、足留、足首留、八艘飛び、灰吹き、吹き流し、つま留、足留（玉つぶし）、腕留、片膝留、横大、猿の子返し、鳶の谷渡り、敬礼ほか 34種類

(4) 演技披露

発足当初、約6メートルのはしごの上で演技をするということに、隊員達は恐怖を感じていたようですが、訓練を重ねるごとに上達し、体力と自信がついて、今や出初式や消防大会等の大勢の観客が集まる前で、堂々と演技するまでになりました。

特に昨年（平成20年）は、新しい試みとして敦賀市最大のイベントの一つである「敦賀ま



▲敦賀まつり（奥に見えるのは気比神宮の大鳥居）

つり」(9月2日～4日)に参加し、隊員達はまつりを彩どる山車(やま)の前で見事な演技を披露し、県内外から集まった多くの観客から大きな喝采を浴びました。

また、演技の最後には「住宅用火災警報器を設置しましょう」という懸垂幕をはしごの上から掛け、住宅用火災警報器の設置促進にも一役買いました。

(5) はしご乗りへの思い

隊員たちは、現在も定期的に訓練を重ね、その中で常に新しい技の研究・修得に余念がなく、「つるが鳶」をさらに発展させようとする彼らの心意気には、本当に頭が下がる思いです。

なお、着ている法被は、気比神宮の大鳥居(国の重要文化財で日本三大鳥居)や日本海の荒波(気比の松原…日本三大松原)をイメージしたデザインとなっています。

また、本年2月には、念願であった「つるが鳶木遣り唄(きやりうた)」も完成し、今後、隊員たちの演技にも益々身が入るのではないかと期待しています。

4 おわりに

敦賀消防団も高齢化の問題を抱えていることは先ほど述べたとおりです。

この先、若い世代の団員を確保しようと考えれば、消防団の方から何か行動を起すことが何より必要であると思います。

消防団がどのような活動をしているのかということは、一般の市民には馴染みの薄いことかもしれませんが、鳶演技を市民に披露することによって団員の頑張っている姿をアピールでき、また、その姿に憧れを持ってくれば、団員確保につながるはずです。

これからも消防鳶隊の演技を通じて団員相互の結束を強め、若い団員を確保して団の活性化を図るとともに、全国に誇れる「つるが鳶」の伝統を皆で培っていきたいと思います。

「つるが鳶木遣り唄」

一 ハアーアーエー つるが鳶だよ いなせな姿

纏かついで 火柱こえて おとこ伊達なら 命をかけて エンヤーラヤ

※ サノヨーイサ ヨーイヤナ エンヤラヤレコノセーエ サノセーエ アレワサエン ヤーラエー

二から四まで省略